

2017

6-7月

はしかけニューズレター

2017年度 第2号 通巻135号

2017年(平成29年)6月1日発行



編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 戸田・八尋・大塚・下松・大槻)
住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4812 ファックス: 077-568-4850
電子メール: hashi-adm@lbn.go.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <http://www.lbn.go.jp/>

～ 目次 ～

1. 新担当からのご挨拶

2. 「はしかフェ」のご案内

3. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 淡海スケッチの会 (3) 近江はたおり探検隊 (4) 大津の岩石調査隊 (5) 温故写新
- (6) 暮らしをつづる会 (7) 古琵琶湖発掘調査隊 (8) 湖(こ)をつなぐ会 (9) ザ! ディスカバはしかけ
- (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生き物調査グループ
- (14) タンポポ調査はしかけ (15) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (16) びわたん
- (17) ほねほねくらぶ (18) 緑のくすり箱 (19) 森人 (20) ちっちゃなこどもと自然であそぼう
- (21) 近江 巡礼の歴史勉強会 (22) 虫架け

生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数・・・327人

グループ数 22 グループ

(2017年5月14日現在)

1. 新担当からのご挨拶

この4月から、はしかけ制度の主担当を務めることになった戸田です。元々の専門は「湖水の物理」という「生き物」からも「暮らし」からも遠い分野で、そういう分野のはしかけグループは残念ながらまだ実現していません。しかし、それとは別に、学校や他の博物館など様々な組織との連携をどのように進めて行けば良いかという観点からの博物館学を進めてきました。そういう意味では、はしかけも含めた交流活動全般に関わってきたと言えるかもしれません。

はしかけ制度を始めてから17年になりますが、それに先立って学芸員の間で「どんな制度が良いのか」ときんざん議論した記録を、担当になったことを機に改めて読み直してみました。議論は3年近くも続いていたようで、私自身も少々驚いています。全国的にみると、はしかけ制度に類似した活動は「博物館ボランティア」として位置づけられていることが多いようですが、日本語の「ボランティア」という言葉は、本来の意味から限定された「無償の社会奉仕」という意味に使われる傾向があります。そのため、当時の議論でも「ボランティア」という誤解を招く呼び方はやめようということになり、それに代わる新しい言葉をいろいろと探した結果、「はしかけ」に行き着いたという経緯があります。

この議論の記録には、琵琶湖博物館が「自主的・自発的な自己実現活動」の窓口になることを目指すという記述があります。つまり、はしかけの活動内容は皆さん自身に決めていただくということです。22グループにまで増えたはしかけ制度ですが、まだまだ未開拓の可能性があるだろうと思います。担当の仕事を通じて、この可能性を探していくお手伝いができればと思っております。よろしくお願いいたします。

(戸田 孝)

2. 「はしかフェ」のご案内



第3回目は7/8(土)
「広がる交流活動の可能性を考える」
ぜひご参加ください!!

こんなはしかけ会員のみなさんにおすすめ

- ・もっと活動、発信の場が欲しいグループ
- ・はしかけ登録したけれど、具体的に何をしようか悩んでいる方
- ・新しいグループを作りたい方。
- ・びわ博の交流活動に要望のある方
- ・びわ博でのいろいろなイベントを一緒にやってみたい方
- ・他のはしかけさんや学芸員と交流したいと考えている方

現在、琵琶湖博物館では第2期リニューアルを進めています。

第2期の目標は、「交流空間」のリニューアル。琵琶湖と森を感じる屋外展示「樹冠トレイル」、大人も楽しむ知的空間「おとなのディスカバリー」、小グループ向け体験展示空間「わくわく体験スペース」など新たな展示が誕生します。そこで、新展示によって広がる交流空間でのあらたな交流活動を一緒に考え、一緒につくる場「はしかフェ」をオープンしています。

第3回目は、びわ博フェスに合わせて、はしかけ会員からの質問、相談を受ける時間を設けます。出入り自由で、お茶やお菓子を用意してお待ちしておりますので、お気軽にお越しください。この機会を使って、普段、会わない違うグループのはしかけの皆さん同士のあいだにも交流が生まれればうれしく思います。



第2回はしかフェの様子(5/14)

対象：2017年度はしかけ登録者

日時：7月8日(土) (びわ博フェス2017の第1日目です)

場所：セミナー室

内容：博物館でしたい交流についての話し合い、活動についての悩み事 + 雑談...

参加方法：当日参加

担当：はしかフェ事務局 妹尾

電子メール: hashi-adm@lbn.go.jp 電話: 077-568-4811

【活動予定】※あくまで予定ですので、変更の可能性もあります。

①10月15日(登録講座) ③12月20日 ⑤3月11日(登録講座)

(妹尾裕介)

3. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 76名】

グループ代表アドレス:uonokai@lbm.go.jp

グループ担当職員:松田征也

【活動報告】

■3月26日(日)午前 運営会議 場所:琵琶湖博物館会議室 参加者:8名
午後の総会の準備、次年度の運営方針等について話し合いました。

■3月26日(日)午後 2016年度総会 場所:琵琶湖博物館会議室 参加者:26名

3月26日、琵琶湖博物館にて総会が行われました。今年度の活動報告ののち、新たに2人のフレッシュな運営委員を迎え、来年度からは12名の運営委員でうおの会を盛り上げて行くことになりました。

運営委員、役員、次年度計画等の承認後は、写真で一年を振り返りました。自分の班の思い出や、他班の活動を見ながら、あーでもないこーでもないと横やりを入れながらの振り返りとなりました。総会最後は恒例?になりつつある、高田さんのピワサワガニ(仮称)の調査報告。今回はなんと滋賀県を飛び出し、大阪、長野、果ては福島と、壮大な活動報告となり、来年の調査予定もあるとのことで、ますます期待の高まる?報告となりました。

来年度は定例調査以外にも他府県での見学、交流など、いろいろと活動を考えております。皆様来年度もよろしくお願ひします。
(報告:竹元冨矢)

■4月16日(日)勉強会 琵琶湖博物館会議室 参加者:23名(講師含む)

4月16日、今年度初となる第125回定例調査が桜満開の中、百瀬川流域で行われました。確認された魚種はイワナ、ビワマスの稚魚、カジカ、タカハヤ、アブラハヤ、ウキゴリ、ドジョウ、シマドジョウ類、オウミヨシノボリ、オオクチバス、ウグイ、ナマズ、ピワヒガイ、ドンコ、オイカワ、スナヤツメの16種類で、多くの魚が確認されました。魚以外にもイシガメ、シマヘビ、アオダイショウ、ニホントカゲ、サワガニなどが捕まえられていました。春の暖かさで、生きもの達も動き始めたみたいです。

追記:帰り道は湖西も湖東も渋滞して大変でした!

(報告:田中治男)

■5月21日(日)第126回定例調査 場所:伊佐々川、十禅寺川、伯母川、狼川、長沢川 参加者:19名

集合場所の矢橋帰帆島は、すでに大勢の家族連れやスポーツをしに来た人たちでいっぱい、陽射しも強く文字通り暑い調査になりました。

今回の定例調査では、調査河川が複数であること、繁華街を流れる河川であることがいつもと異なっています。集合場所の広い駐車場とは異なり、調査地点付近に駐車スペースが確保できるかが問題となりました。各班とも移動に用いる車を1台に制限し、それぞれが乗り合わせで調査に向かいました。

治水・利水に長けた都心部の河川の特徴でしょうか、三面コンクリート、一部が水路のように狭くなり、魚にとっては住みにくい場所に思えます。このような状況の中でしたが、堆積した泥や水生植物の陰に身をひそめながら生活する魚たちと出会うことができました。河川の姿にいろいろな思いを馳せる調査となりました。

【活動予定】

■6月3日(土) イタセンネット活動の見学(淀川)

■6月18日(日) 第127回定例調査(知内川)

■7月8日(土) びわ博フェスへの出展

■7月16日(日) 第129回定例調査(日野川中・下流)

【連絡事項など】

■うおの会では、正確な会員数把握と連絡のために、はしかけ登録とは別に、年度ごとに「会員登録票」を提出頂いています。

■登録票はうおの会のWEBサイトからダウンロードでき、メールでの提出も可能です。忘れずにご提出下さい。もちろん、手渡しも可能です。



(2) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ)19名】

グループ代表アドレス: sketch@lbn.go.jp

グループ担当職員: 篠原徹, 榎永一宏

【活動報告】

- 3月26日(日) 沖島(近江八幡) 活動会員数 14名
- 4月23日(日) ミホミュージアムの桜と三筋の滝(信楽) 活動会員数 5名

【活動予定】

- 6月25日(日) 平湖(草津・志那町)
集合場所 平湖駐車場 集合時間 午前10時30分(午後3時解散予定) ※雨天中止
- 7月23日(日) 水生植物園(草津)
集合場所 水生植物園 チケット売り場 集合時間 午前10時30分(午後3時解散予定)

※初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください



(3) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ)13名】

グループ代表アドレス: oumihataori@lbn.go.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】

織姫の会

- 3月25日(土)、(参加者:4名)
縄文原体作りの続きをしました。撚り方だけで28種類ありますが、そのサンプルを作っていただきました。また、地機で手ぬぐい織りを継続しています。
- 4月12日(水)(参加者:2名)
縄文原体作りと綿繰りをしました。びわ博フェスに向けて縄文原体ストラップ作りはどうかと相談しました。
- 4月29日(土)(参加者:4名)
縄文原体作成のため、LとR撚りの糸を製作しました。
- 5月10日(水)(参加者:3名)
縄文原体を作成しました。



縄文原体のサンプル

【活動予定】

■織姫の会

5月27日(土)、6月10日(土)、28日(水)、7月9日(日)、26日(水)
8月はお休みです。

■その他

- 6月10日(土) わくたん「ドキ土器! おしゃれもようを楽しもう!」に参加
縄文原体で土器に模様をつけて焼きます。焼いている間に縄文撚りの紐を作りますので、お手伝いをお願いします。
- 6月23日(金) 丹後の藤布展見学
丹後藤織り保存会の丹後の藤布展を見学に行きます。11時から藤績みの実演がみられるので、その時間に合わせて行く予定です。参加される方はご連絡ください。
- 7月9日(日)10:00~12:00 びわ博フェス参加
縄文撚りのストラップ作りで申し込みました。ご協力をお願いします。

(辻川智代)



(4) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス:ganseki@lbn.go.jp

グループ担当職員:里口保文

【活動報告】

■4月の活動

2017.04.08(SAT)に、大津市・吾妻川周辺の桜鑑賞と露頭の調査を予定していたが、雨天のため中止した。

■5月の活動(参加者 7名) 2017.05.14(SUN) 11:00-17:00 大津市・長等山周辺、案内者:中野

- (1) 調査ルートと概要: JR 大津京に集合し、バスで比叡平に行き、そこで全体の説明を受けた。隊員から成因などの質問あり。中野さん、里口さんから丁寧な回答があった。その後、予定のルートに従い、花崗岩の深層風化、花崗岩と堆積岩の接触境界、石切り場跡の観察、堇青石、褐れん石の採取、さらに、五別所のスカルノンの観察と採取をした。その後、小さな鍾乳洞の見学、比叡山の遠望、長等山山頂の花崗斑岩、琵琶湖の眺望を楽しみ、通称「砂山」で高温石英の採取をした。三井寺の穴太積の観察をし、予定通り三井寺の出口で解散した。
- (2) 採取した石など: 褐れん石は日本で最初に発見されたとのことでそれなりに努力したが見つけたのは専門家の中野さん一人。難しかったが、探索を楽しんだ。スカルンは大きなブロックがある。割ると見事な繊維束一扇状の結晶が特徴である珪灰石であった。また微細な粒子状物からなる方解石も取れた。方解石と花崗岩のマグマが接触変成して見事な繊維束扇状の珪灰石の構造ができることに驚いた。高温石英も風化した通称「砂山」で採取した。水晶にも幾つかの変態があることを勉強した。
- (3) 今回の調査のポイントと乾燥: 岩石の風化、熱変性、接触変性、結晶変性等。岩も長期的には実に変化することが理解できた。そうした結果として、山も変形することも比叡を遠望し学んだ。今の時期の杉やヒノキの森も快適で素晴らしい調査・ハイキングであった。

【活動予定】

■6月の予定

6月3日(土) 大津市・堅田丘陵の地層や調査。貴重な場所を専門家の服部昇さんに案内頂きます。参加希望の方は、連絡ください。



(5) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス:onkosyasin@lbn.go.jp

グループ担当職員:金尾滋史

【活動報告】

■4月9日(土) 9:30~15:00 おでかけ撮影会 ~草津駅前編~ 参加者 9名

今年度は「いま、残しておきたい滋賀の風景」をテーマとしており、その第一弾として草津駅前撮影を行いました。駅前の商店街や国道にあった草津川のトンネルの撤去工事の風景など、もうすぐなくなってしまうかもしれない風景を記録しました。また、時期的に桜もすばらしく、新しくなった草津川跡地公園での撮影も行いました。

【活動予定】

■5月27日(土)9:00~16:00 おでかけ撮影会 ~マキノ・今津の山間部編~

集合: 博物館 9:00 雨天中止

交通費、昼食など別途必要、おやつの上限なし

マキノ町在原、箱館山周辺など、高島の山間部の初夏の風景を撮影します

参加される方は、必ず金尾学芸員 (kanao@lbn.go.jp) までご連絡ください。

■6月24日(土)9:30~12:00 博物館会議室

7月7日(土)、8日(日)に開催されるびわ博フェス2017での展示にむけた準備を行います。

温故写新では、皆様からのご依頼があれば、博物館主催行事やはしかけグループ活動での記録写真などの撮影協力を行ないます。必要な方は温故写新担当学芸員(金尾)へご連絡ください。ただし、メンバーの日程の都合上、ご協力できないこともありますので、ご了承ください。



(6) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: kurashi@lbn.go.jp

グループ担当職員: 大久保実香, 渡部圭一

【活動報告】

■4月15日

1月・2月に続いて、守山市にお住まいの乗田さんにお話を伺いました。

今回は野洲川改修以前の、野洲川が氾濫したときのことをお聞きました。乗田さんの住んでおられる木ノ浜では、周辺に水路が張り巡らされていたため、氾濫した水が水路に流れ、床下浸水がなかったことやその水路に少し高低差をつけ琵琶湖に水が流れて行くように工夫していたことなどを教えてくださいました。また、水路の底などに溜まったドロや藻をかいて田んぼに上げ、それが肥料になったことなどもお聞きました。水路が村を守り、村に暮らす人が水路を守っていた様子がよくわかりました。次回はお話をまとめたものを乗田さんに見ていただきたいと思っています。

(中尾京子)



(7) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ代表アドレス: hakutsu@lbn.go.jp

グループ担当職員: 山川千代美

【活動報告】

[4月の活動報告]

■4月23日(日) 参加者: 8名

- ・野洲川(湖南市)の河原の探索と地層の観察
- ・化石のクリーニング実習用泥岩のブロック採集

好天に恵まれ、野洲川右岸を下流に向かって探索しながら、各メンバーがそれぞれのアプローチで、自分たち自身の目で地層を観察しました。



いくつかのポイントで貝化石やメタセコイアの球果化石を採集したのち、昼休みを挟んで、午後からは、次週4月29日(土)の化石のクリーニング実習用泥岩をブロック採集し、この日の活動を無事に終了しました。



次週は、化石の同定のために欠かすことのできない、化石のクリーニング作業の技術を身につけるための実習を行います。とても重要な技術なので、古琵琶湖発掘調査隊では機会があるごとに行っています。

■4月29日(土) 参加者:7名

・化石のクリーニング実習(琵琶湖博物館 実習室1)

クリーニング実習に入る前に、4月23日(日)の活動内容をスライドショー形式で振り返り、地層の見目の様子の違いや、化石を採集した層準について確認をしました。また、実際に現場に出て気が付いたことや、疑問に思ったことなども自由に発言し、今後の活動に生かせるよう話し合いました。

クリーニング実習では、貝化石やメタセコイアの葉化石などをクリーニングしたり、顕微鏡で化石を詳しく観察したりしました。クリーニング作業中に、コハクを見つけたメンバーもいました。ときどき意外なものが見つかるのも、化石のクリーニングの楽しさの一つです。



クリーニングが終了した化石は全員で観察して同定作業を行い、大切な情報である『名称・採集日・採集場所・どの地層から採集したか・地層の年代』をカードに書き込み、化石とセットにして標本にしました。

■まとめ

今回は、2週連続のセットで活動してみました。野外調査(現場)でしか確認できない情報、屋内に持ち帰り化石などを精査することで得られる情報……。より多くの情報を集めて、そこから何を読み取っていくのか、古琵琶湖発掘調査隊らしさを模索しながら、一步ずつ、古琵琶湖時代の古環境を再現していく活動を続けていきます。

【5月の活動報告】

■5月14日(日) 参加者:5名

・足跡化石調査のお手伝い(日野川)

長年にわたり、足跡化石の研究をされている先生のお手伝いをしながら、足跡化石について勉強をしました。足跡化石を地層ごと切り取る作業にも挑戦し(とても難しいのですが)、偶蹄類の足跡化石の切り取りに見事に成功したメンバー達もいました。

【活動予定】

未定



(8) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス:ko-tunagu@lbm.go.jp

グループ担当職員:林竜馬

【活動報告】

今回もいつもと同じように低年齢の子ども達対象でしたが、一生懸命話を聞いてくれて、たのしい時間でした。毎回午後2時と3時に紙芝居を上演していますが、最近、3時の回の集まりが少なくなっています。上演時間の検討も必要かと考えています。

【活動予定】

- 6月11日(日) 13:00 実習室2集合 紙芝居上演
- 7月9日(日) 12:00 会議室集合 紙芝居上演等



(9) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ代表アドレス:hashi-discov@lbn.go.jp

グループ担当職員:澤邊久美子, 森智美, 片淵綾香

ディスカバリールームでは、毎年恒例のカイコの展示がそろそろはじまります！6月は人気イベントだったホテルの紙芝居が復活します。また、新しいプログラムの虹色の傘作りを計画中です。さらに、7月はびわ博フェスがあります。今年は葉っぱスタンプに挑戦！

メンバーは、今、お手玉つくりの材料集めのため、ジュズダマとハトムギを育てています。芽は出ないかな～と思っていたら、芽が出ました！このまま成長してたくさんのタネが材料に取れるといいな。リニューアル閉室中も活動予定です！

ぐんぐん、成長して
いっぱい種ができますように！



【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
登録講座	5月14日(日)	はしかけ登録講座	グループ紹介をしました。 1名



芽が出たと思ったら、急成長！！

～メンバーからのメッセージ～Vol.1.35

ディスカバのイベントでは子どもたちの楽しそうな笑顔だけでなく、集中して思いの外真剣な眼差しにもたくさん出会えて楽しかったです！

(ザ！ディスカバはしかけ卒業のメッセージ) 田井中

【今後の活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけイベント	6月10日(土) 11:30-12:00	ゲンタのたんじょうものがたり(紙芝居)	ほたるのゲンタのたんじょうものがたりを紙芝居でお話します。今年もホテル、見ましたか？
はしかけイベント	6月24日または25日	虹色の傘作り(仮)	梅雨の時期に合わせて、折り紙を使って虹色の傘作りをします。
はしかけ準備	6月(未定)	傘作りとびわ博フェスの準備、練習	準備と練習をします。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に澤邊またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましよう！



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数 35名】

グループ代表アドレス:satoyama@lbn.go.jp(登録会員数 39名)

グループ担当職員:山本綾美

【活動報告】

■4月 9日(日) 里山体験教室の現地下見

■4月16日(日) 里山体験教室 参加者48名

快晴に恵まれ、一般参加者35名(9家族)、里山の会11名、博物館学芸員2名、総数48名で春の里山活動を楽しみました。今年的一般参加者は幼児多数の家族が中心で自然観察が初めての親も多い中、「はしかけの森」から「大篠原里山ため池」までの約1kmの道のりで昆虫観察や山菜天ぷら用の野草とりを頑張ってくれました。採取した野草は、里山の会メンバー宮本さんによる分類・説明のあとてんぷらにして昼食の副食としてみんなで味わいました。また、山川姉妹によるデザートづくりでは、子供たちにも団子づくりを手伝ってもらいヨモギ団子を味わってもらいました。午後は、森の木を使ったネームプレートづくりや小山頂上まで親子で手をつなぎながら登り琵琶湖を見に行き、普段のまちの生活で体験できない事を楽しんでいただき大満足の様子で春活動を終了しました。(吉井)



【活動予定】

■5月21日(日) 春の大篠原里山遊び

■7月2日(日) 琵琶博フェスワークショップ準備&ピザ釜 ランチ in 高取山ふれあい公園

■7月8日(日) 琵琶博フェスワークショップ

■7月9日(日) 里山体験教室(夏)下見

■7月16日(日) 里山体験教室(夏)本番



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス:shoku-kan@lbn.go.jp

グループ担当職員:芦谷美奈子

植物観察の会は、2004年の企画展「植物がうごくとき〜のびる・ひらく・ひろがる」の時に、多くのはしかけさんに植物に親しんでいただくために、当時琵琶湖博物館に在籍していた布谷知夫さんが作ったグループです。

その都度自由に参加できる気軽な観察会を、会の発足以来長年にわたり開催してまいりましたが、2017年度より少し会の運営方針を変えていくことになりました。

これまで会として名簿を作らずに、観察会ごとに参加者を募ってきましたが、今後はメンバーの名簿を作り、例会を月に1度開きながら、比較的近場をベースにしながらか自立的に植物について学び、年に2、3回程度で少し遠出しての観察会を開催することになります。

【活動報告】

2017年4月には行いませんでした。

5月14日(日)は、「博物館の周りの植物をみてみよう」ということで、参加者で野外観察(散歩?)を行い、その後実習室で持ち帰った物を図鑑で調べたり、顕微鏡を使って観察したりしました。

ヤブタバコとオニタバコ、カラスノエンドウとスズメノエンドウとカスマグサ、シロダモとタブノキとヤブニッケイなど、実物で相違点を観察したり、生垣のモチツツジの虫こぶや花の付け根のねばりを触ったりしました。「子どもの頃ツツジの蜜を吸ったよね」と言いながら、蜜を吸ってみましたが「やっぱり甘いね」「ん?思ったほど甘くない」など感想は色々……。少し新芽の時期には遅かったようですが、色や形を見ながらふわふわの新芽(綿毛布のようでした)にも触れました。「博物館の周囲には「木へん」に「春、夏、秋、冬」の漢字が着く木がすべてある」という話を聞いたり、「この木はこんな花が咲く」と長年

観察を続けている方の画像を見せていただいたりしながら、1時間ほどの予定で歩きました。が、実際、実習室に戻ってみると、なんと2時間10分も経っていて「時速500m」でした。

実習室に帰ってから、スギナの根の切片で維管束（ハスと同じように穴だらけ）を観たり、アカシデ（葉柄が赤い）とクマシデとサワシバ（葉の基部が心円形）の葉を実物と図鑑を照らし合わせて比べたりしました。各自が調べたい物があり、それをみなさんで共有することができたので、これからもこのスタイルをしばらく続けたいと考えています。

最後に、次回の予定と連絡方法（メーリングリスト作成）の話し合いを行い、終了しました。

【今後の活動】

■基本的には、月の第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。活動にご興味をお持ちの方は、メールにてご連絡ください。

外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定です。

■6月11日（日）「瀬田公園の観察会」 ☆はしかけ登録のある方は、どなたでも参加可です☆

場所：瀬田公園 集合：体育館の遠い方の駐車場 10:00 集合後、現地へ移動します

時間：10:00～14:00 講師：布谷 知夫さん をお願いしてあります

- ・小雨決行（警報の場合は、中止します）
- ・動きやすい服装、持ち物（帽子、水分、昼食、その他各自必要な物）

■7月2日（日）「調べたい物を持って集まろう ①」

場所：琵琶湖博物館 実習室1 時間：13:30～16:00

- ・暑い時期になりますので、各自持ち寄った物を使って調べます
- ・室内での活動です

■8月6日（日）「調べたい物を持って集まろう ②」

場所：琵琶湖博物館 実習室1 時間：13:30～16:00

- ・暑い時期になりますので、各自持ち寄った物を使って調べます
- ・室内での活動です
- ・この日に、9月、10月、11月の予定を決めます



モチツツジ

この活動に興味のある方は、メール（上記メールアドレス）にてご連絡ください。



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21名】

グループ代表アドレス: keisou@lbm.go.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

【活動報告】

たんさいぼうの会第52回総会を、4月2日（日）の10時から、南郷水産センターで開催しました。参加者は12人でした。進路報告を兼ねた各人の活動報告の後、今年度の「たんさいぼうの旅」の計画、びわ博フェスティバルの計画などを話し合いました。また、役員の新選が行われ、今年度も昨年度と同じ体制（木原会長、津田会長補佐、石井会計）となりました。午後は花見・・・の予定でしたが、今年は開花が平年より大きく遅れたため、つぼみがようやく膨らんできたサクラを横目に飲み食いすることになりました。

5月14日（日）のはしかけ登録講座で、たんさいぼうの会は新たに3名の新入会員を迎えました。会員は現在、各地の湿原の珪藻の写真を手分けして撮影しています。蝸牛の歩みではありますが、主役（主著者）を交代しながら、1つずつ確実に論文にしていこうと思います。

日本珪藻学会第38回大会（東京・大森；5月27日・28日）で、服部圭治会員が「東海層群亀山層から産出した *Praestephanos suzuki* 類似種化石の形態観察」というタイトルで研究発表を行います。また影の会長が、中井大介会員と連名で「琵琶湖から見つかった *Gomphosphenia* 属の新種」というタイトルで発表をします。いずれも琵琶湖の珪藻の謎に迫る内容です。

【活動予定】

5月に計画していた「たんさいぼうの小さな旅 山門湿原ふたたび」は、湿原の多くの植物の花期にあたるため、「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」と相談の上で、ほとんどの植物が結実まで完了する11月に延期することにしました。

琵琶博フェスティバル（7月8日・9日）で、たんさいぼうの会は「琵琶湖の小さな生きものを観察する会」とともに、マイクログリアリウムで珪藻のプレパラートを見せたり、様々な微小生物の解説をしたりする予定です。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス: tambo@lbn.go.jp

グループ担当職員: 鈴木隆仁

新年度が始まりました。新入会員の森さんご一家を含め田んぼグループの総員は 22 名となりました。楠岡さんに続きグライガーさんも卒業され淋しくなりましたが、グループ担当職員もグループ代表も若い世代となり、ますますの発展を心がけていきましょう。

【活動報告】

■新年度第一回目の総会 4月8日(土) 13:30~16:40 博物館実習室1 参加者 15名

1. 会員自己紹介

- ・新入会の森さんを迎え、各グループ員の自己紹介をしました。

2. 本年度調査全般について

- ・広域調査は一定の成果が得られたので、経年変化に主眼を置く。
数の変化を知るために調査方法を検討する。
- ・個人調査では同じ田んぼでの経時変化を調べる。

3. 各調査の日時、場所の決定

- | | | |
|--------|------|--------------------|
| ・5月28日 | チームA | 草津、守山、近江八幡 |
| | チームB | 湖南市、日野町、竜王町 |
| | チームC | 東近江市 |
| ・6月4日 | チームD | 今津、マキノ、塩津中 |
| | チームE | 伊吹、米原、彦根 |
| | チームF | 野洲 |
| ・6月11日 | 合同調査 | 瀬田、石山3. 来年度の調査について |

- ・1999年の調査から20年たつ2019年に大掛かりな調査を行うための準備をする。
- ・経年変化を追いかけるため30地点を集中的に調査する。
- ・経時変化は各自が近くの田んぼの定点で調査を行う。(最低でも一週間に一度くらい)

【活動予定】

上記のとおり、3度の調査が予定されています。参加希望の方は代表アドレスまでお知らせください。次回の総会については未定です。6月4日の調査後に決定の予定です。

(石井千津)



(14) タンポポ調査はしかけ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: h-tanpopo@lbn.go.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

今年のタンポポのシーズンは、そろそろ終盤です。今シーズンは、結構遅くまで花が残り、雑種が多いとは思いますが、5月下旬に入ってもまだ花や綿毛が観察できます。

<タンポポ調査はしかけ、継続活動中！ 次の調査までは、突っ込み型の取組みをしていきます！>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年も実施される予定です。

2015年の調査は終了しましたが、2020年の調査をより充実した内容の濃いものにするために、「タンポポ調査はしかけ」の活動は継続しています。2020年の調査までに、広域調査の調査方法では調べることができない、タンポポの種類ごとの生態や、分布と環境との細かな関係性など、つつこみ型の調査や勉強をしていこうと考えています。

タンポポは、まだまだわからないことが沢山ある、身近な植物です。
一緒に楽しくタンポポを囲んで、調査や勉強会、その他の交流をしていきませんか？

<2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書をご希望の方はお知らせください！>

「タンポポ調査・西日本2015」の報告書および結果チラシをご希望の方は、上記アドレスあるいは芦谷まで直接お尋ねください。チラシを配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

<引き続きメンバー募集中！既存メンバーについてはMLを見直します！>

今回の調査（2019年予備調査、2020年本調査）を視野に、活動しております。このはしかけグループでは、短期間の分布調査だけでは明らかにできないタンポポの疑問を、少しでも解決したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております！現在のメーリングリストを見直して、新たに連絡体制を整えたいと思います。メーリングリストに入れて欲しいというご希望の方は、上記アドレスまで連絡をください。

【活動報告】

●2017年4月16日（日）に、滋賀植物同好会のタンポポ調査が甲賀市で行われ、そこにメンバーも参加しました。当日は、白花系タンポポを初めロクアイタンポポなど観察されたそうです。（2名）

●2017年5月13日（土） わくわく探検隊「タンポポ調査にでかけよう！」が行われました。（1名）

悪天候の中、「ひわたん」のメンバーと当館の教員がタンポポを採取し、タンポポメンバーの方の助言で光をあてて花を咲かせて、ドライフラワーを作りました。

【活動予定】

特にありません。



(15) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス:bck@lbm.go.jp

グループ担当職員:大塚泰介

【活動報告】

■5月7日(日)(参加者4名)

琵琶湖博物館前でプランクトンやベントスの採集・観察を行いました。今回は新しく会員が入ったのでプランクトンネットの投げ方や付着生物の採集方法についてレクチャーしながらの活動でした。

プランクトンはミクラステリアスやスタウラストルムなどの緑藻類やワムシの仲間が多いのが印象的でした。他にも水辺の植物に付着していた珪藻や底生動物などいろいろな生き物を観察しました。個人的に今回特に面白く感じたのはミミズの仲間でした。フサゲミズミミズ、トックリヤドリミミズ、ウチワミミズの仲間、ミズミミズの仲間などが観察できました。



フサゲミズミミズ

背中に生えている長い毛を水中で振り続け、毛に付着したものを食べる。湖内に沈んでいた木の枝に付着していた。



トックリヤドリミミズ

肉食性のミミズ。家にサンプルを持ち帰り観察しているとお腹の中に食べられたミジンコがいた。



ミズミミズの仲間 *Nais* sp.

【活動予定】

6月4日（日）に生活実験工房の田んぼにいる生き物の観察を行います。鈴木隆仁さん（琵琶湖博物館学芸技師）にイタチムシについてご教授いただく予定です。

以降の開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



4月、5月のわくわく探検隊は「春の植物」を扱った内容でしたが、野外での活動は事前下見が大切であることを改めて感じる機会となりました。安全かつ効率良く観察するためにはどのコースがよいのか、花の見頃を迎えた場所はどこにあるのか、当日の天気への心配もしながら実施計画を立てました。残念ながら、5月は雨天となり活動内容の変更を余儀なくされましたが、メンバーの機転によりたんぽぽの花を咲かせることができました。



光を当てる様子(2時間程度)

【活動報告】

■4月8日(土) 「春の草花でしおりを作ろう！」 60名

はじめて司会をやりました。みんなしんげんにきてくれたのでとてもうれしかったです。こんどはほかのプログラムをやりたいです。できれば、ぐるぐる糸ぐるまがいいな。

びわたん (ゆっち)

4月は、わく探定番の「春の草花でしおりをつくろう」を実施しました。小雨の降る中、たくさんの方に参加して頂きました。

はじめに、屋外展示で草花を採集しました。見つけた草花を草加博士に見せに行き名前や特徴を聞きます。茎が四角だ！と自分で発見する子もいました。

次に、採集した草花の名前調べをしました。図鑑で調べたり博士に聞いたり…。

最後に、しおり作りをしました。水分を取ってきれいに並べて、思い思いに工夫する参加者のみなさん、大人も子どもも関係なく楽しむ事が出来るこの時間が、わく探の醍醐味です。

今回参加したみなさんが、日常でも足元に咲く小さな草花に気づいてくれると嬉しいです。

びわたん (いっし〜☆)



■5月13日(土) 「タンポポ調査に出かけよう！」 27名

今月のわく探は屋外にでかけてタンポポの調査を行い、採集したタンポポを使ってドライフラワーづくりに挑戦する計画でした。しかし、前夜から雨天となり午前中いっぱい続いたため屋外でのタンポポ調査は中止しました。雨の中、スタッフが採集したタンポポを使ってタンポポ博士の芦谷学芸員からお話を聞きました。タンポポには大別すると在来種と外来種がありその簡単な見分け方や滋賀県での繁殖状況を教わりました。また「偽タンポポ」という外観がよく似たものもあるということでスタッフも間違っ採集しました。

驚きの発見は冷たい雨の中で採集したタンポポは花卉がしぼんでいたのですが明るい照明で照らすと二時間ほどで見事に開花したことです。あらためて光と植物の強い絆を感じました。次は採集したタンポポを使ってドライフラワーづくりに挑戦しました。密封できる小さなガラス製ミルク瓶の中に先ほど開花した花や綿毛を粒上のシリカゲルと一緒に入れて完成です。言葉では簡単な説明ですが、小さな瓶の中に花や綿毛を直立させて入れるのはけっこう難しく皆さん苦労されていました。しかし完成すると「帰ったらいろいろな草花でも作ってみたい」との声があちこちで上がり参加者の好奇心を誘発したようです。タンポポの綿毛が丸い形を保ったままガラス瓶の中で鎮座する姿はとても幻想的です。シリカゲルはDIY店などで1kg入り500円弱で入手できます。皆さんもぜひ挑戦してみてください。

びわたん (しゅうさん)



【活動予定】

■6月10日(土) 「ドキ土器!おしゃれもようを楽しもう！」

■7月8日(土) 「水草を観察しよう！」



(17) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

ほねほねくらぶ

グループ代表アドレス:hone-hone@lbn.go.jp

グループ担当職員:松岡由子, 高橋啓一

【活動報告】

■3月26日(日)参加者6名

アナグマの除肉、コウライキジの除肉を行いました。

■4月9日(日)参加者1名

アライグマの除肉、標本データの資料整理を行いました。

■4月29日(土)参加者4名

魚アナグマの除肉、シカの肢の解剖、カメの骨の組み立てを行いました。そろそろ気温が高くなり始め、これからの時期は骨に付いた組織の腐敗が早くなるので、骨格標本作りがしやすくなります。

冬の間解剖を進めておいたものを順次、水に浸けていき、腐敗させて骨にしていきます。その分臭いも強くなるので、博物館で異臭騒ぎを起こさないためにもこまめな水替えとチェックが欠かせません。

■5月14日(日)、参加者3名

アナグマの除肉、ネコの骨のクリーニング作業、フナの解剖、を行いました。また、午後からはしかけ登録講座で活動紹介を行いました。

この登録講座での活動紹介ですが、私が紹介をする機会の度に、人前だと極度に緊張してしまうタチが疎ましく思われます。数回やってみたら慣れるものかと思っていたのですが、そんなことは全く無く、毎回頭が真っ白になります。なので、最近はお互いの方にお願いすることが多いのですが、スラスラとしゃべっておられるのを見ていると、尊敬するしかありません。そんな自分だから思う事なのかもしれませんが、毎回この説明で骨に興味を持ってもらえるだろうかと悩んでしまいます。

骨の世界は、知れば知るほどいろいろな所へ通じていて、大変興味深い世界なのですが、なかなかそれをお伝えするのが難しいです。それだけに、いままでにお会いした広い知識をお持ちの方や、面白く説明して下さった人たちのすごさを痛感しています。



【活動予定】

6月は11日(日)、24日(土)に活動を予定しています。

7月の詳しい活動日は現在未定ですが、

月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



(18) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス:midori-k@lbn.go.jp

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■3月27日(月) 場所:琵琶湖博物館 生活実験工房(参加者7名 うち子供2名)

・藍の種まき

本年度の活動として、藍の葉っぱ染めを提案しました。生活実験工房横の大プランター、3つ用意して種をまきました。

週2回ほどお水をやりにいきましたが、なかなか芽がでてくれませんでした。

来年、リベンジしたいと思います。

現在の様子



少しでも
大きくなると
いいなあ…

■4月22日(土) 場所:琵琶湖博物館 実習室2(参加者15名 うち子供2名)

・食べられる野草の採取とヨモギうどんとよもぎ蒸しパン作り



材 料 (2~3人分)

うどん生地>	
よもぎ (細かく刻む)	適量
中力粉	300g
塩	15g
水	135~140ml
中力粉 (打ち粉として)	適量
だし	適量

材 料 (6人分)

よもぎ蒸しパン>	
ホットケーキミックス	150g
上新粉 (米粉)	50g
よもぎ	適量
卵	2個
砂糖	40g
サラダ油	大さじ4
塩	ひとつまみ
牛乳	100cc
ゆで小豆缶	100g

*琵琶湖博物館周辺で食べられる野草の見分け方の勉強会と採取(カラスノエンドウ、たんぽぽ、ヨモギ、オニタビラコ・・・など)をして館内へ戻り、実習室にて上記メニューに従って活動を開始、子供さんが二人参加してくれ、よもぎうどんをこねる作業をすごく頑張ってくれたこともあり、こしのあるしっかりとしたヨモギうどんが出来ました。

- *感想
- ・野草が美味しく食べられることを知り、新しい世界が広がりました。
 - ・子供と一緒に参加して草の名前を教えてもらったり、うどん作りではとても頑張ってくねているのを見てうれしかったです。
 - ・足元の野草に目を向けるいい機会になりました。
 - ・野草が食べられるなんて初めて知り、また野草の天ぷらも美味しかったです。
 - ・これからは野草を見る目が変わります。

【活動予定】

5/23 (火) 13:00 どくだみのチンキ漬け
もぐさ用よもぎの摘み取り
生活実験工房にて実施します。



(19) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス:morihito@lbm.go.jp

グループ担当職員:林竜馬

【活動報告】

■森の観察、来年度の活動計画など

3月25日(土) 10:00~12:00 場所:生活実験工房

参加者:(会員)3名 (博物館職員)林、草加

内容:森の周辺ではツクシが出てシロバナタンポポクが咲いていました。シナサワグルミは雄花の蕾が見られハンノキ、メタセコイアは開花し雄花、雌花ともに確認できました。ただしメタセコイアの雌花は双眼鏡で見ないと分かりません。スイショウの雄花は沢山ついでいますが雌花が確認できませんでした。



■動物カメラの電池交換と屋外展示の森の観察

4月8日(土)13:30~16:00、場所:生活実験工房、参加者:(会員)3名(博物館職員)林

内容:時々雨が降る天候でしたが森の観察を行いました。外のソメイヨシノは満開で人の目を引きつけますが屋外展示の植物の花は目立たないものが多いですね。メタセコイア、オニグルミ、ハンカチノキの葉が展開し始めています。フウの葉が展開し雄花と雌花が確認できました。アカシデ、クマシデ、コウヨウザン、シャクナゲが開花していました。スイショウの雌花も確認できました。



■動物カメラの確認と屋外展示の森の観察

4月22日(土) 13:30~16:00、場所:生活実験工房、参加者:(会員)5名(博物館職員)林、草加、澤邊

内容:動物カメラの点検整備をしたあと写りの悪かった2台は落葉樹林の西側と太古の森所の北側に移動し設置しました。

鳥類はキジとシメが新たに確認され全部で9種類となりました。アライグマとタヌキがそれぞれ2頭で行動しているのが撮影されました。今後、特定外来生物のアライグマの増殖が懸念されます。

森ではメタセコイアの若い球果、スイショウは葉が展開し始めています。オニグルミ、シイは雄花の蕾が見られ、シナサワグルミとトネリコは開花して雄花と雌花が確認できました。クスノキは古い葉が紅葉しまもなく新葉と入れ替わります。



■動物カメラの電池交換、毎木調査の実習、樹幹トレイル解説版の検討

5月14日(日) 10:00~12:00 場所:生活実験工房、

参加者:(会員)4名 (博物館職員)林、草加

内容:屋外展示の森はあつという間に新緑で覆われ、縄文・弥生の森ではシイとイチイガシが開花しています。

毎木調査の実習:今回は練習として太古の森で10m×10mの区域を設定しました。その範囲内の14本について環境省のマニュアルを参考に起点からの位置、種名、胸高周囲長、樹高などのデータを測定しました。今回の経験をもとに縄文弥生の森で本年秋に実施予定です。

樹幹トレイル解説版の検討:現在、樹木に関する解説版が2案出されていますが樹種や説明文などさらに検討する必要があります。

す。次回6月3日に各種案内板も含めてさらに検討します。



【今後の予定】

- ◎5月21日(日)11:00~15:00 朽木の森ユリノキ祭りに参加 場所：森林公園「くつきの森」高島市朽木麻生
- ◎6月3日(土)13:30~16:00 生活実験工房 内容：動物カメラの確認と樹幹トレイル解説版の検討など。
- ◎6月24日(土) 10:30~15:00 外部観察会 (大津市桐生)
- ◎7月は8日(土) 琵琶博フェス参加と 22日(土)に活動予定。

★森が好きな人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか
 ★参加を希望される方は 森人(もりひと) morihito@lbm.go.jp に連絡ください。



(20) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス:chikoaso@lbm.go.jp

グループ担当職員:澤邊久美子

4月、新しい年度になり、少し子ども達も大きくなりました。お兄ちゃんお姉ちゃんが幼稚園や保育園に行かれたので、2歳児さんが活躍です。1歳児さんから2歳児さんのたった1歳の差ですが、それぞれの成長の差はとて大きく、ちこあそや実験工房に慣れて「おはよう」の声と共にやって来る子、まだよちよち歩きをしながら、お母さんと一緒に手で土や草に触れ、その感触を確かめる子と様々です。今回のメイン活動は、工房の裏に出てきたマダケのタケノコ堀り。お母さんたちも初めて鍬やスコップを持ち、タケノコを掘りました。子どももお母さんと一緒になって、タケノコを掘ります。慣れてくると、あちこちに生えているタケノコを発見して、たくさん持って帰ってもらえました。また、バンダナおじさんが朝堀りタケノコを調理してくださり、天ぷらで食べました。子どももお母さんもその美味しさに、手が何度もお皿へ伸びて、あっという間になくなりました。春の食をたっぷり体験してもらえた4月でした。

水が入り、田植えが終わった田んぼ。5月は、水の生き物をみんなで眺めます。畔から、落ちそうになりながら、ヌマガエルを一生懸命捕まえようとしたり、タイコウチが死んだカエルを食べている姿を眺めたり、初めて触れる田んぼの生き物に興味津々でした。森に入ると、ハバチの幼虫がオニグルミの葉っぱをムシャムシャ食べている姿に出会ったり、澤邊学芸員からネズミがオニグルミの殻をかじって食べている跡を教してもらったりと発見がいっぱいでした。また当日はとても暑く、ガチャコンポンプが取り合いになるほど、大人気でした。水道のホースや蛇口、ガチャコンポンプのハンドルの取り合いから、ちょっとしため事になるのも、子ども達のいい成長の機会と思い、大人たちはにこやかに眺めています。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。

<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha>
 をご覧ください。

【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
4月	4月19日(水) 10:00-14:00	春真っ盛り！あたたかい森と畑と田んぼで遊ぼう！ ちこあそ2月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー3人、幼児8人、保護者7人、学生1名

5月	5月17日(水) 10:00-14:00	雨と晴れごとに、成長する自然をじっくりみしてみよう ちこあそ3月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー4人、幼児8人、保護者8人、学生1名
----	----------------------	-------------------------------------	---

【今後の活動予定】

	実施日	タイトル	内容
6月	4月19日(水) 10:00-14:00	初夏をいっぱい感じよう ちこあそ6月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチします。

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



4月、タケノコ掘れたよ。重たーい



4月、ヤエムグラで、ひっつきむし遊びです。



5月、落ちないでねー。田んぼで生き物探し。



5月、ヌマガエルを捕まえて、みんなで観察しました。

(21) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: junrei-rekishi@lbm.go.jp

グループ担当職員: 橋本道範, 渡部圭一

【活動報告】

5月6日、グループの初活動として甲賀市土山町でのフィールド調査を実施。会員3名と琵琶博から橋本さん、岸さんの5名で甲賀准四国設置由来に書かれた発起人の土山町永雲寺を訪問し、現住職の阪上氏より寺に残されていた100年前に制作された4点の資料の説明をしていただいた。

- ①設立当時の朱印帳に押印された印鑑三種類
- ②四国・繁多寺のご詠歌と発起人と賛助員の名簿が書かれた掛額
- ③100年前に制作された弘法大師像と厨子
- ④「巡拝案内記」第1番龍福寺から第88番願龍寺までの里程とご詠歌が記されているガイドブック(大正4年発行)

この中で「巡拝案内記」はその存在さえ知らなかった大発見になった。



【活動予定】

(6月7月)

甲賀市甲南町の伊勢廻寺・慈眼寺および甲賀准四国設立発起者の子孫の方々(森口氏・松岡氏・東氏・中田氏・福野氏)への訪問、聴き取り調査を実施する

(福野)

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください



(22) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: mushikake@lbm.go.jp

グループ担当職員: 八尋克郎

【活動報告】

■4月15日(土)午後 運営会議 琵琶湖博物館生活実験工房 参加者:6名

今年度の活動計画について話し合いました。

■5月4日(木)10時~15時 野外調査 長浜市余呉町にて 参加者:7名

余呉にて昆虫観察、採集をしました。昨年同時期よりも気温の上昇が遅いようで、予想より数が少なかったものの、チョウ、ガ、ハチ、ハムシ、トンボ類等、多くの種類を確認できました。

【活動予定】

今後、1か月に1回程度の野外調査、2か月に1回程度の室内勉強会を予定しております。詳細は検討中です。ご興味のある方は、グループ代表アドレスまでご連絡ください。

生活実験工房からのお知らせ

担当職員: 下松孝秀

※生活実験工房の先日の田植え体験では、天候に恵まれ、多くの方の参加をいただき無事終わることができました。これからは昆虫や小さな生きものが育つ季節です。7 月には昆虫採集のイベントがありますので、はしかけ、フィールドレポーターの皆様のご参加をお待ちしております。

【活動予定】 開催時間 10:00～12:00 場所 : 全日程とも生活実験工房

■7月23日(日) 昆虫採集

■9月10日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)

■10月8日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)

※一般参加者の受付は、9:30 からです。

各自、長靴、着替え等をご用意ください。

5. その他の事項

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に、はしかけグループ担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループの代表アドレスにご連絡ください。

(2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけアドレスの hashi-adm@lbn.go.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3) 会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4) 活動中に事故が起こったら

加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 [滋賀県社会福祉協議会](#) TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから、各グループの担当者まで連絡してください。詳しくは、平成 29 年度の「ボランティア保険」パンフをご覧ください。パンフは、はしかけ事務局(博物館学芸事務室)にもあります。